

はしがき

本書は、経営学の視点から、リスクマネジメントにアプローチした書物である。

リスクマネジメントは、保険を中心とするファイナンス的なアプローチと、安全工学的なアプローチの2つの流れが中心となって発達してきた。第三、第四、第五の流れとして、経営学的なアプローチ、防災学的なアプローチ、そして法学的なアプローチなどが存在する。

本書は、経営学的なアプローチから、①経営学のエッセンス、②リスクマネジメントの基本的な考え方（生活リスクマネジメント）、③リスクマネジメントの応用（経営戦略型リスクマネジメント）を学習できるように構成した。

第一部では、経営学の初学者を念頭に「経営学のエッセンス」をスライドで示している。学習者がスライドを参考にして、自ら調べていくことを促している。

第二部では、リスクマネジメントの基本として、生活リスクマネジメントについてまとめた。具体的な生活を題材にして、学習者が「リスクマネジメントの基本的な考え方」「日常生活におけるリスク・コントロール（予防）」「日常生活におけるリスク・ファイナンス（保険）」について理解できるように構成した。学習者に自分の日常生活へのフィードバックを促すワーク（練習問題）を盛り込んでいる。

第三部では、リスクマネジメントの応用として、経営戦略型リスクマネジメントを取り上げている。経営戦略型リスクマネジメントの理論的な枠組みを示し、意思決定（リスクテキング）の観点から行ったインタビューや調査に基づくケーススタディを掲げた。

本書第一部は、関西大学・総合情報学部『基礎科目 経営学 講義資料・プリント集』（関西大学出版部、各年版）と、関西大学・社会安全学部『現代の企業と経営学』（創造工房ライジングサン、2012年）・『経営学概論 講義資料・プリント集』（同、2013年）から構成した。

第二部は、関西大学・全学共通科目「学生生活とリスク」の教材として出版した『図解 イラストで学ぶリスクマネジメント』（文教出版、2013年）に加筆修整して構成した。

第三部は、『経営者とリスクテイクング』（関西大学出版部、2005年）の内容を半分に凝縮し、全面的に加筆修整した上で、最新の事例を盛り込んだものである。

本書が、経営学の初学者、リスクマネジメントの初学者、そして経営戦略とリスクマネジメントの学習者に何らかの参考になれば幸いである。浅学非才の筆者ゆえ、本書の内容において、未熟な点や誤りがあることと思う。本書を手にして下さった方々からのご教導を期待する次第である。

なお、本書の出版にあたっては、法律文化社の秋山泰氏に大変お世話になった。心より感謝申し上げたい。

2014年7月

亀井克之